



	2025-8
監督・脚本: 入江悠	
原作: 垣根涼介「室町無頼」(新潮文庫刊)	
出演: 大泉洋 / 長尾謙杜 / 松本若菜 / 遠藤雄弥 / 前野朋哉 / 阿見 201 / 般若 / 武田梨奈 / 水澤紳吾 / 岩永丞威 / 吉本実憂 / ドンペイ / 川床明日香 / 稲荷卓央 / 芹澤興人 / 中村蒼 / 矢島健一 / 三宅弘城 / 柄本明 / 北村一輝 / 堤真一	

👁️👁️ みどころ

NHK 大河ドラマでも、映画でも、「幕末～明治維新モノ」と「戦国モノ」が多く、室町モノは少ない。したがって、本作の主人公・蓮田兵衛と骨皮道賢は誰も知らないだろうし、応仁の乱（1467 年）の少し前に起きた正長の徳政一揆（1428 年）も知らないはずだ。そんな原作小説を誰が書いたの？そして今、なぜそれが映画化されたの？

黒澤明監督の『七人の侍』（54 年）は映画史に残る名作時代劇。同作では三船敏郎の“怪演”が目立っていたが、NHK 紅白歌合戦の司会業でも人気者になった俳優・大泉洋に、そんな「室町モノ」の主役が務まるの？

そんな不安もあるが、サブストーリーとして漫画のような「師弟モノ」(?)を設定した上で、個性的なキャラを多数配置し、なぜ一介の牢人＝蓮田兵衛が百姓たちの借金の棒引きを求める一揆の首謀者になったのかを面白く見せてくれる本作は、今風の若者向けの時代劇エンターテインメントに仕上がっている。

1 月 20 日に「トランプ 2.0」が開始する中、富の偏りと経済格差の問題がより一層強調されているが、「スパルタクスの反乱」（B. C73～B. C71 年）はなぜ起きたの？また、それは何を目指したの？そんな問題と対比しながら、本作を楽しむかつ「正長の徳政一揆の意義」を考えるのも一興だ。

———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ————

■□■原作は垣根涼介の小説。主人公は蓮田兵衛と骨皮道賢■□■

私は最近の小説をほとんど読んでいないから、本作の原作となった垣根涼介の小説「室町無頼」については何も知らなかった。同作は室町時代を題材としたものだが、原作者が自ら「室町時代を題材とした小説自体がほとんどありませんし、応仁の乱前夜とも言える

土一揆の話を小説にしたのはおそらく僕が初めてのこと。」と語るとおりだから、そんな原作が映画化されるのは珍しい。また、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康は日本人なら誰でも知っているが、同小説の主人公たる蓮田兵衛（大泉洋）と骨皮道賢（堤真一）を知っている日本人は誰もいないだろう。だって、歴史上の史実としても、蓮田兵衛は寛正 3 年の徳政一揆の大將として、突然歴史の表舞台に現れただけの人物だし、骨皮道賢も「応仁記」に「骨皮道賢は、多賀高忠が侍所所司代の時に目付として活躍した」と書かれているだけの人物なのだから。

パンフレットにある「群書類従 新撰長祿寛正記」によると、1420 年に応永の飢饉が起き、1428 年には「正長の徳政一揆」という日本史上初の民衆蜂起が起きたそう。そして、同原作はそんな時代背景の中で、2 人の「室町無頼」の活躍を描くものだ。こりゃ、面白そう！

■□■知られざる時代の、知られざる史実に基づく物語！■□■

NHK 大河ドラマでは、「幕末から明治維新もの」と「戦国時代もの」が圧倒的に多く、「平安もの」や「室町もの」は稀。2024 年の「光る君へ」は珍しく「平安もの」だったが、「室町もの」は「太平記」（91 年）ぐらいしか思い浮かばない。「室町もの」が少ないのは、映画でも同じだ。

室町時代末期から戦国時代に入ろうとする時代を背景とした面白い NHK 大河ドラマが「国盗り物語」（73 年）だった。また映画では、司馬遼太郎の原作『城を取る話』を、舛田利雄監督がメガホンを取り、石原裕次郎主演で映画化した『城取り』（65 年）はメチャ面白い異色のアクション時代劇だった。室町幕府の成立は 1336 年、そして足利尊氏が征夷大將軍に就いたのは 1338 年だが、足利時代で有名なものは 1467 年に起きた「応仁の乱」くらいのもの・・・？

本作のパンフレットには、早島大祐氏（関西学院大学 教授）の「室町社会の特質—映画『室町無頼』をより深く鑑賞するために」があるが、これは本作のバックを理解するために必読！「資本主義」はマルクスとエンゲルスが『資本論』で分析したとおり、“資本”の集積と“剰余価値”が本質だが、そのことは明治国家建設の中で、銀行がいかなる役割を果たしたかを考えればよくわかる。すると、室町時代には、莊園を中心とする貨幣経済はどんなシステムで動き、カネ（銭）はどんな役割を果たしていたの？本作冒頭にみる大飢饉と疫病がこの国を襲う中、借金地獄に苦しむ庶民と、富める者との経済格差はなぜあんなに大きくなっていたの？そして正長の徳政一揆は、なぜあの時期に京の都で起きたの？

■□■俳優も監督も本格的時代劇は初！ホントに大丈夫？■□■

大泉洋の代表作は『探偵は BAR にいる』（11 年）（『シネマ 27』54 頁）だが、今や彼は俳優業はもとより、NHK 紅白歌合戦の司会や歌手としても大活躍！その多才ぶりは群を抜いている。しかし、三船敏郎ばりの活躍が要求される本格的時代劇たる本作は彼にとって

初挑戦だから、ホントに大丈夫？また、堤真一の代表作は『ALWAYS 三丁目の夕日』（05年）（『シネマ9』258頁）で、ヒューマンドラマからアクションまで幅広いジャンルの活躍を続けているが、時代劇はほとんどないはずだ。他方、本作の脚本を書き監督した入江悠の作品について、私は『JOKER GAME』（15年）（『シネマ35』未掲載）、『太陽』（16年）（『シネマ38』184頁）、『22年目の告白 私が犯人です』（17年）（『シネマ40』226頁）、『ビジランチ』（17年）（『シネマ41』81頁）等、たくさん観ているが、彼も本格的時代劇は本作が始めてだから、ホントに大丈夫？

そんな心配をしながら、1461年、応仁の乱前夜の京における大飢饉と疫病で苦しむ庶民たちの姿を観ていると、その映像美は如何に？また、己の腕と才覚だけで混沌の世を泳ぐ自由人たる蓮田兵衛の無頼ぶりは如何に？また、蓮田兵衛の旧友でもあり、本来は同じ無頼の徒でありながら、今は京都守護職として室町幕府の雇われ役人になっている骨皮道賢の行動は如何に？

■□■兵衛はなぜ一揆の首謀者に？スパルタクスとの異同は？■□■

私は『室町無頼』の原作を全く知らなかったが、本作を観ていると、正長の徳政一揆の首謀者になった牢人・蓮田兵衛のキャラクターが、大泉洋の好演もあって実に面白く描かれていることがよくわかる。それは骨皮道賢も同じだ。

もっとも、「師弟モノ」の弟子となる没落武士の子・才蔵（長尾謙杜）や、才蔵の武術面の師匠となる棒術の達人・唐崎の老人（柄本明）のキャラクターはいささか誇張されすぎており、漫画的になっている。さらに、2人の主人公の周辺を固める、高級遊女・芳王子（松本若菜）らの女性陣も、居合の達人・赤間誠四郎（遠藤雄弥）、槍使い・七尾ノ源三（前野朋哉）、金棒使いの巨漢・馬切衛門太郎（阿見201）等の、才蔵に挑んだ牢人たちのキャラも漫画的だ。しかし、三船敏郎を主役とした巨匠・黒澤明監督の完璧な時代劇の数々とは違い、本作は大泉洋の主演によるエンタメ時代劇だから、そのレベルでOK！？諸国を歩き回っている牢人の蓮田兵衛が、剣の達人・骨皮道賢と固い絆を結んでいる姿や、一揆を企てた吉坂郷の民たちから強く慕われている姿も、十分な説明はないものの、それは所与のものとして理解すればいいことだ。

しかし、私が中学1年生の時に観て大きな感動を受けた、学校の推薦映画『スパルタカス』（70年）を思い出すと、さまざまな点において違いがある。その第1は、スパルタカスは同じ奴隷の中でたまたま剣闘士（グラディエーター）に選ばれたため、その地位を利用して「スパルタクスの反乱」を首謀したが、蓮田兵衛は農民ではなく、武術も知識も備えた武士だったことだ。ストーリー展開を見ていると、農民だけの力では、骨皮率いる武装集団を雇った足利幕府に対抗できないことを理解していたことがよくわかる。そのため、蓮田兵衛が首謀した農民一揆は、あくまで借金の証文を燃やし、借金を棒にするためだけの徳政一揆だったわけだ。

違いの第2は「スパルタクスの反乱」は、皇帝と貴族が支配するローマ帝国を打倒し、

奴隷制の廃止を求めた、まさに革命だったが、蓮田兵衛が首謀したのは、荘園制と貨幣経済の下で成立している足利幕府の転覆を目指す革命ではないということだ。もちろん、蓮田兵衛が目指したものがそうであったからといって、その価値が減殺されるものではない。むしろ、牢人として諸国を歩き回らる中で、よくぞそんな矛盾に気づき、命をかけてまで正長の徳政一揆を首謀した彼の着眼力と行動力に感服！

■蓮田兵衛と骨皮道賢の、両極端の選択をどう考える？■

2025年1月20日のトランプ大統領の就任演説を聞いていると、考えるべきことが多い。その第1はウクライナ戦争やコロナ危機をめぐってよく言われていた独裁型全体主義国 VS 西欧型民主主義国との対比だ。トランプ大統領がスローガンとした MAGA (Make America Great Again) も、結局は、米国を脅かす存在になりつつある中国との対決を意識したものだ。第2はもともと不動産王としてのし上がってきたトランプは良くも悪くも政治家ではなく経済人だから、すべてをディール（取引）で決しようとするのは当然だということだ。

そして第3は、そんなトランプが富裕層・大企業の側に立つのか、それとも労働者の側に立つのか微妙だ、ということ。つまり、本作に即して言えば、トランプは、時として蓮田兵衛の側に、時として骨皮道賢の側につく可能性があるということだ。蓮田兵衛と骨皮道賢は勝手気まま、独断先行等々、本来よく似た性分で、「似た者同士」だが、決定的に違ったのは、あくまで自由を尊重し一匹狼の路線を貫くのか、それとも少しは自由を犠牲にして足利幕府に仕えるサラリーマン路線になるのかの違いだ。その両者ともバラ色の成功が約束されているものではないから、その選択はそれぞれの決断によるもの。結果として、蓮田兵衛は唐崎の老人との絆や吉坂郷の民との絆を重視したことによって、正長の徳政一揆を首謀して死んでしまい、骨皮道賢は一時的にその恩恵を受けることができた。しかし、京都守護職として骨皮道賢のわがままがどこまで通るかは世の推移に委ねられることになるから、1467年に応仁の乱が勃発すると、東軍の細川勝元についた骨皮道賢は、西軍の山名宗全らの攻撃を受けて敗死することに。

1974年4月に弁護士登録をした私は2025年3月末をもって50周年を終えたが、50年間一貫して一匹狼の弁護士生活を貫いてきたことに誇りを持っている。そうだからこそ、2002年から始まった『シネマルーム』の出版が20年以上も続き、56巻も続いているわけだ。蓮田兵衛も骨皮道賢も悔いのない選択をしながら最後は残念な死を遂げたが、それに比べれば、私は悔いのない選択をしながら、なお76歳の今日まで長生きできていることに感謝！

2025（令和7）年1月23日記